

第2回

岐阜市教育振興基本計画検討委員会

事務局説明・提案

H29. 8. 30

目次

第1回会議のまとめ

1. 第1回会議のまとめ ①
2. " ②
3. " ③
4. " ④
5. " ⑤
6. " ⑥
7. " ⑦

子どもを育む社会や大人のあり方について

8. 教育によって育みたい子ども・人間像
9. 子どもを育む社会・大人のあり方

計画の枠組みについて

10. 第1回会議をふまえた計画の柱立て
11. 柱1の概要(たたき台)
12. 柱2の概要(")
13. 柱3の概要(")
14. 柱4の概要(")
15. 全体のイメージ
16. 岐阜市教育大綱
17. 補足①:地域や保護者の皆様との協働
18. 補足②:教員の指導力の向上
19. コンパス・キューブ
20. ソーシャル・キャピタルに関して

目標・指標の設定について

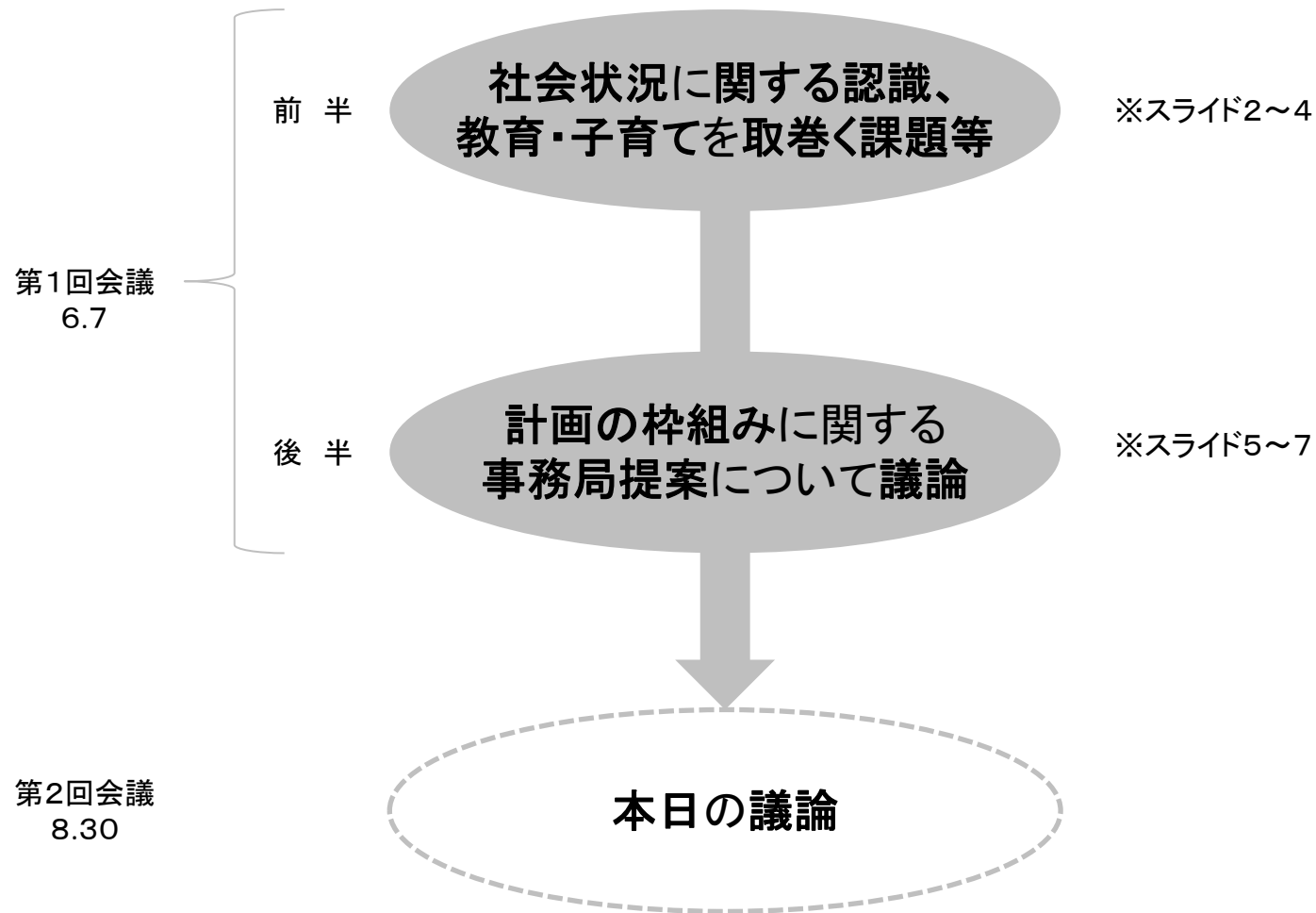
21. 目標・指標について
 22. 点検評価の状況
 23. 事務点検評価委員会における意見

 24. ご議論頂きたいこと
-

第1回会議のまとめ

1. 第1回会議のまとめ ①

- ▼ 前半部分で、現在の社会状況に関する認識や教育・子育てを取巻く課題等について意見が出された
- ▼ 後半部分で、計画の枠組みに関する事務局提案について意見が出され、議論が行われた



2. 第1回会議のまとめ ②

▼ 生活に根差した実感等から気になることや課題に思うこととして下記の意見が出された

個人と社会

- ・個と社会の折り合いの付け方やバランス感覚が、自分たちが育ってきたころといい悪いではなく違うと感じる

精神的な強さ

- ・今の高校生は、規範意識は高くなっていると感じるが、少し打たれ弱い面があるのではないかと

感性

- ・保育園や幼稚園の段階から「人を大事にする」ということをもっと前面に出していくと、小学校に入ってから学級に行けなくて相談室にいるという子どもが多少減るのではないかと
- ・(スマートフォンの話に関して)子どもたちの「他者と関わる」という側面が心配

身体・運動

- ・「心と体の健やかな成長」という点で、バランスが取れていない子どもが多くなっているのではないかと
- ・子どもたちの平均的な身体的能力が非常に落ちているのではないかと

情報化社会

- ・現代は情報化社会となっており、今の子どもたちは、私たちが育ってきた頃とは全く異なる価値観の中で育ってきているのではないかと
- ・スマートフォンの体への影響はどうか、どういう価値観を持った子どもになるのか想像がつかない
- ・情報があまりに氾濫しすぎているので、簡単に結論に飛びついてしまうのではないかと
- ・情報の取扱い方等の情報リテラシー教育があつて、初めて情報を使いこなす力が積み上がるのではないかと

中高接続

- ・進路指導のあり方も含めて、中高の接続を考えていく必要がある
- ・中学校のときは資格試験に対してどのような捉え方をしているのかについて、中高接続の中で気になっている

3. 第1回会議のまとめ ③

▼ 教育にかける想いや次代を担う子どもたちへの期待等として下記の意見が出された

求められる資質

- ・いつ何が起こるか分からない時代に、自分で考えて自分で生活していける子どもに育てたい
- ・自分のことや日本の文化、歴史のことを話せるなど、根幹となる感性や基本的な知識などをしっかりと身に着けさせる必要がある
- ・どういふ変化が起きようと、その変化をしっかりと感じ、分析し、自ら対応していける力を養わないと心身ともに強い人材にはならない

体験・経験

- ・美しいものを見て喜んだり、興味関心で自由に行動したりといった側面をもっと大事にして、多様な経験を積んでいくことが必要
- ・へこたれない生徒をつくるにはどうしたらよいか、もっといろいろな経験をさせていかななくてはならない

プロセス>結果

- ・結果よりプロセスの方が大切。
子どもがプロセスを尽くしたことは、仮に結果がついてこなくても子どもの自信になって、次の目標に向かったり人生を豊かに幸せに過ごしたりしていけることに繋がるのではないか
-

4. 第1回会議のまとめ ④

▼ 検討委員会や次期計画への期待等として下記の意見が出された

価値観の共有

- ・教育の理念や方向性という根っこの部分について、
学校に子どもを預ける保護者の方と、教育行政をされている方が本当に合っているのか
- ・これだけは共有しなければならないという価値観が何かということは決めて、すべての方々が共有できるとよい

啓 発

- ・大人の自覚を促すことがすごく大事ではないか
- ・子どもは常に何かを与えてもらう立場ではなく、
子どもと関わることで大人も触発されるので、その部分が喚起されると良い
- ・「みんなひとまとめにして同じ方向を向かせないと教育じゃない」という傾向があり、
そのあたりをどう変えていくかを議論できたらよい

5. 第1回会議のまとめ ⑤

▼ 市教委が作成した「ニーズを整理した図」の解釈等について下記の意見が出された

ソーシャル・キャピタル

- ・様々なニーズを有する方の背景に「ソーシャルキャピタル」があると考えた場合、柱として立てるのか、背後にあるものとして位置付けるのか
- ・「ソーシャルキャピタル」から「ボリューム」、「チャレンジ」、「サポート」に矢印が向かうのではないか
- ・図の中に、それぞれ学校教育と社会教育があると考えられる。その背後に「ソーシャルキャピタル」を位置付けてもよいのではないか

ボリューム

- ・（「ボリューム」という言葉について）感覚的には良いのかどうか違和感がある
- ・（「ボリューム」という言葉について）ごく普通の日常ということが大きいのではないか。みんなで共有できる基盤として考えると、「ありふれた」とか「日常性」という意味で「コモン」と呼ぶのが適するのではないか

疑問

- ・ニーズを図示して柱立てすることによってどれだけの意味があるのか疑問。マトリックスで考えればよい話ではないか

6. 第1回会議のまとめ ⑥

▼ 次期計画の枠組みや柱立て等について下記の意見が出された

ニーズと柱立て

- ・(ニーズごとに)分けて考えようという発想に賛成。色々な子どもがいるので、画一的な教育ではなく、それぞれの個性に応じていくとよい
- ・現行の計画は大人側の施策のイメージで分けられているが、ニーズは子どもたちの状況に則して分けたものと言える。相手側のニーズから出発して、それを大人側が整理してまとめると柱3つになるのではないか

3つの柱

- ・柱を3つに分けることが後々どうかという点が気になる。キーワードは重なっていても良いと思うが、これを3つにきれいに分けることは恐らく難しいのではないか
- ・ターゲットを明確にすると、効率性が高くなり教育的な効果が上がるのではないか。柱をあまり増やさない方がターゲットを明確にできるので、教育的な効果が現れやすい

柱の中身

- ・柱3が柱1・2の背後にあるという位置付けも考えられる。柱1・2にコンテンツが入り、それを実現するためのキャピタルが背後にある。それが人間の交流関係や信頼ではないか
- ・柱1・2の中にコミュニティ・スクールが位置付けられるし、柱2の中に子ども若者総合支援センター“エールぎふ”との連携等が入るのではないか

7. 第1回会議のまとめ ⑦

▼ 次期計画における目標や指標の設定に関連して下記の意見が出された

懸念

・成果を求められる圧力が「こんなことをしてみたい」ということを弱らせてしまうのではないか

検討に際して

・施策として重要なことは「子どもが元気になるような機会」をどのように作るか

・「子どもがどのように変わったのか」より、
「子どもが経験できる場がどれだけ豊かになったのか」を重視した方が良いのではないか

子どもを育む社会や大人の あり方について

8. 教育によって育みたい子ども・人間像

▼ これまでの経過の中で下記の方向性が示されている

岐阜市教育大綱

岐阜市は、地域・保護者の皆様とともに、「夢と希望に満ちた未来の実現」に向け、果敢に挑戦できる子どもを育む

第1回会議

- ・いつ何が起こるか分からない時代に、自分で考えて自分で生活していける子どもに育てたい
- ・自分のことや日本の文化、歴史のことを話せるなど、その根幹となる感性や基本的な知識などをしっかりと身に着けさせないといけない
- ・どういう変化が起きようと、その変化をしっかりと感じ、分析し、自ら対応していける力を養わないと心身ともに強い人材にはならない

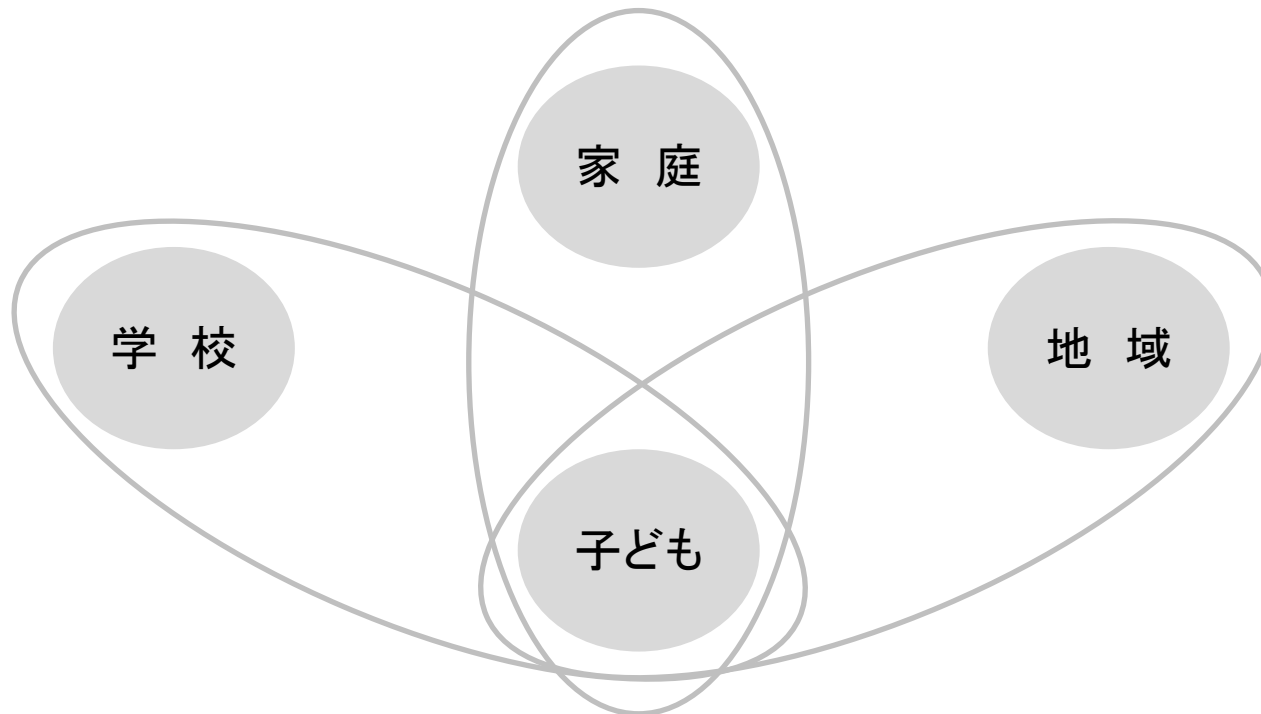
9. 子どもを育む社会・大人のあり方

▼ 大人側に求められる自覚・認識は？

第1回会議

- ・大人の自覚を促すことが大事ではないか
- ・子どもは常に何かを与えてもらう立場ではなく、子どもと関わることで大人も触発されるので、その部分が喚起されると良い

子どもと家庭・学校・地域(イメージ)



計画の枠組みについて

10. 第1回会議をふまえた計画の柱立て

▼ 前回示した案では、

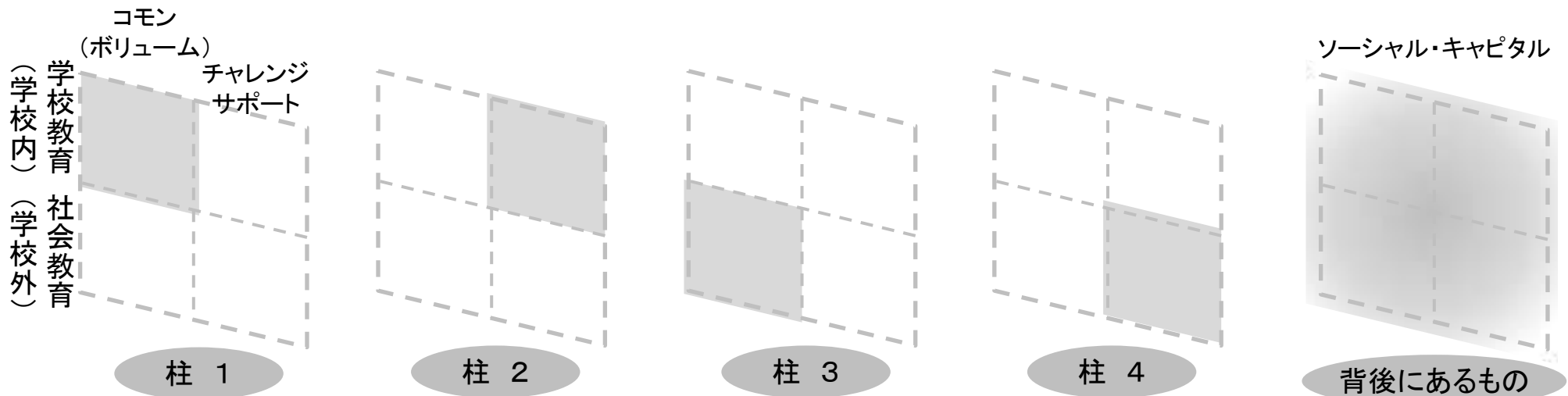
- 柱3(ソーシャル・キャピタル)に社会教育を位置付けていた
- 3つのニーズ(コモン(ボリューム)、チャレンジ、サポート)の対象を学校教育に限定していた

▼ 議論の中で、

- ソーシャル・キャピタルが包括的な概念として重要であること
- ニーズは学校教育だけでなく社会教育にもあり、それぞれが連続するものであること
- ニーズに基づく分類は施策の目的と対象を明確化する上で有効であること

▼ そこで、

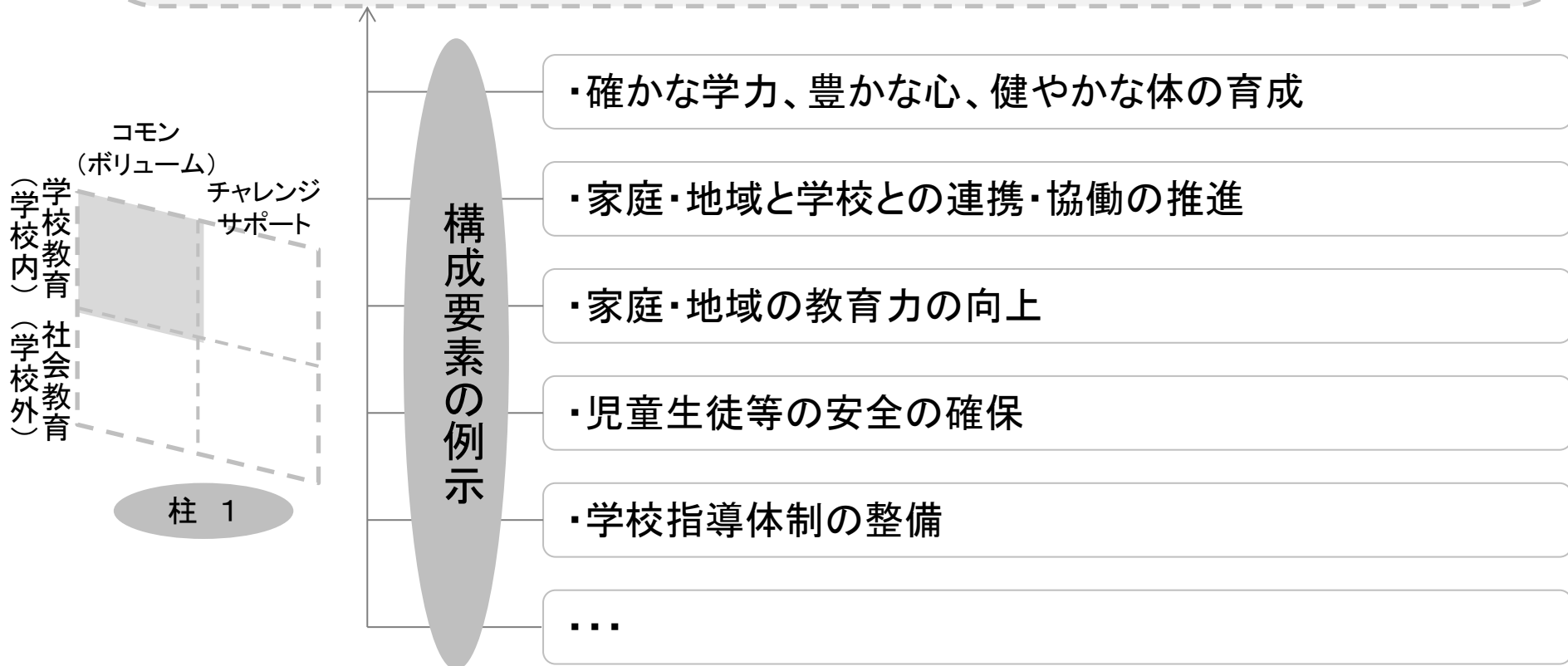
- ソーシャル・キャピタルを各柱の背後にある重要なものとして位置付ける
- ニーズは前回と同じく「コモン(ボリューム)」と、「チャレンジ・サポート」に分ける
- 柱をニーズに応じて分けた上で、学校教育と社会教育に分けた4本の柱を位置付ける



11. 柱1の概要(たたき台)

▼ 熱意と志を持ち、前向きに挑戦し続けることのできる基礎的な能力の育成

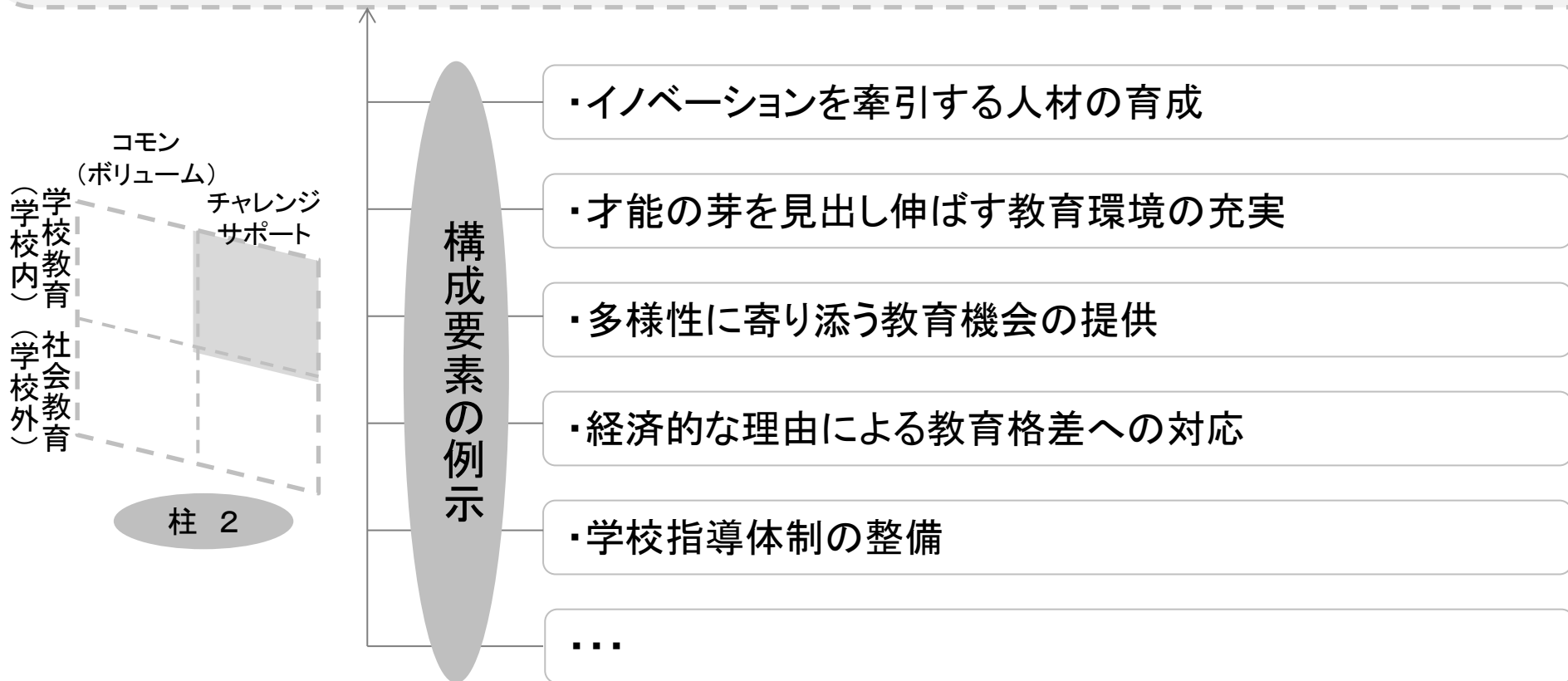
- 技術革新等により急激に変化する社会を生き抜くのに必要な力を育成するために、確かな学力、豊かな心、健やかな体など、社会に主体的に関わるための基礎・基本が重要
- 情報化社会の進展により、単なる知識の価値が低下する中で、得た知識に基づき創造的なアウトプットを生み出すスキルが求められるとともに、玉石混交の情報を取捨選択する知恵が必要
- …



12. 柱2の概要(たたき台)

▼ 全ての子どもたちが多様な個性や能力を発揮し、将来に明るい希望を描くことのできる能力の育成

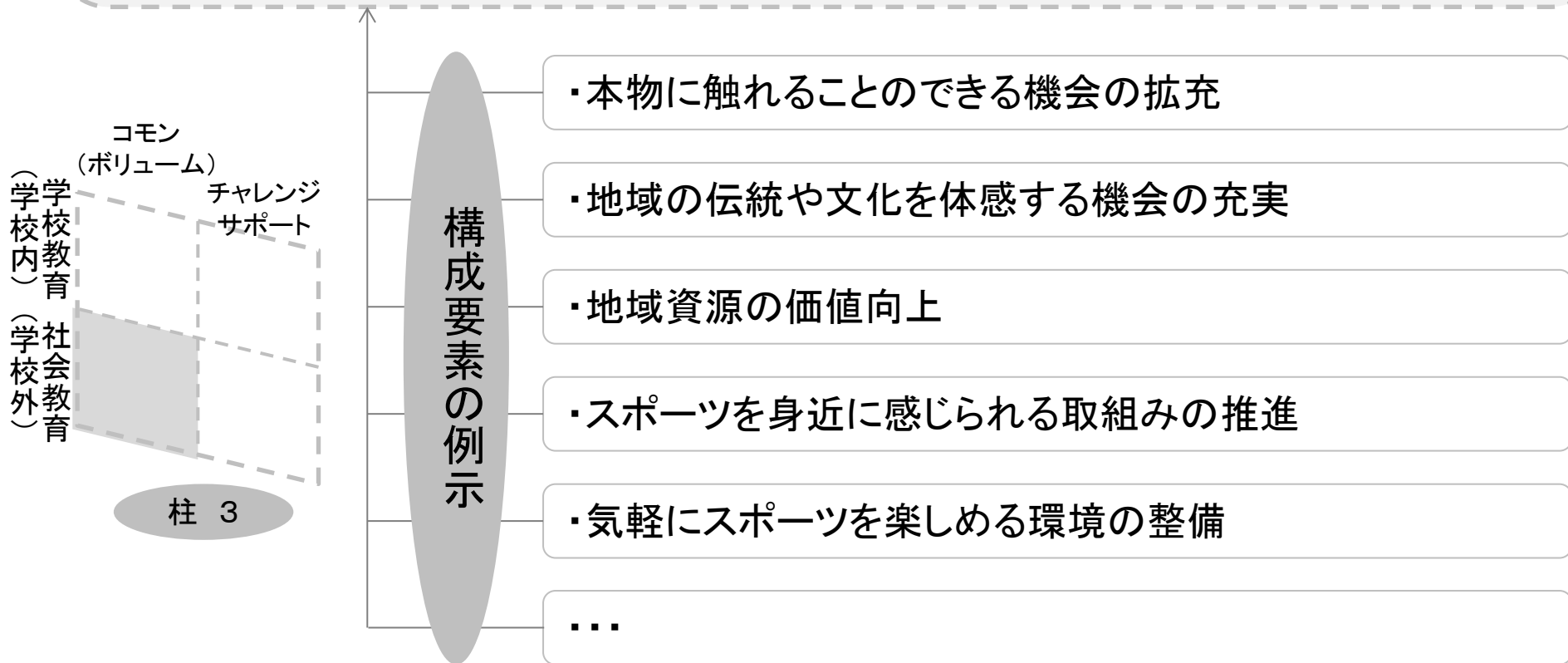
- 新たな価値を創造したり、互いの強みを活かすことで弱みを補完し合ったりすることが必要
- AI時代であるからこそ、人が人としてより幸せに生きることのできる社会が求められる
- 重要となるのは多様性やインクルージョン(一人ひとりを尊重し、様々な意見やアイデアを聴き入れること)
- ...



13. 柱3の概要(たたき台)

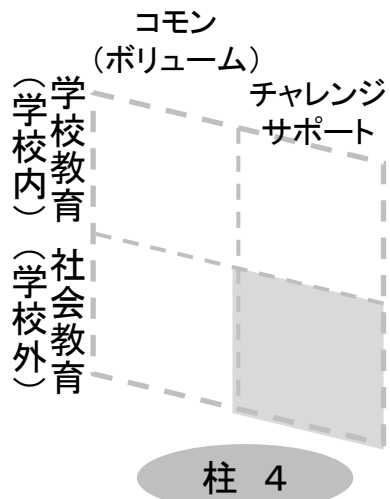
▼ 生涯にわたる継続的な学びやスポーツを後押しする取組みの推進や環境の整備

- 様々な経験を経て培われた多様な興味関心に応える質の高い社会教育を展開
- 心身の健康の保持増進のために重要な役割を果たすスポーツ(日常生活における体力づくりや健康の保持増進を意識した身体活動を含む)に、気軽に親しむことのできる環境の整備
- ...



14. 柱4の概要(たたき台)

- ▼ 一人ひとりの生きがいや挑戦を応援するとともに、誰もが社会の担い手となるための支援の充実
 - 長所や強みに磨きをかけ更なる飛躍を実現するための教育や支援の充実
 - 全ての人々が能力や可能性を最大限に伸ばして、それぞれの夢に挑戦できるようにするための支援体制の拡充
 - 長寿社会において「二つ目の人生」を生きる人が増える中で、それまでの経験を活かして多様なフィールドで活躍することを望む人へのいざない
 - …

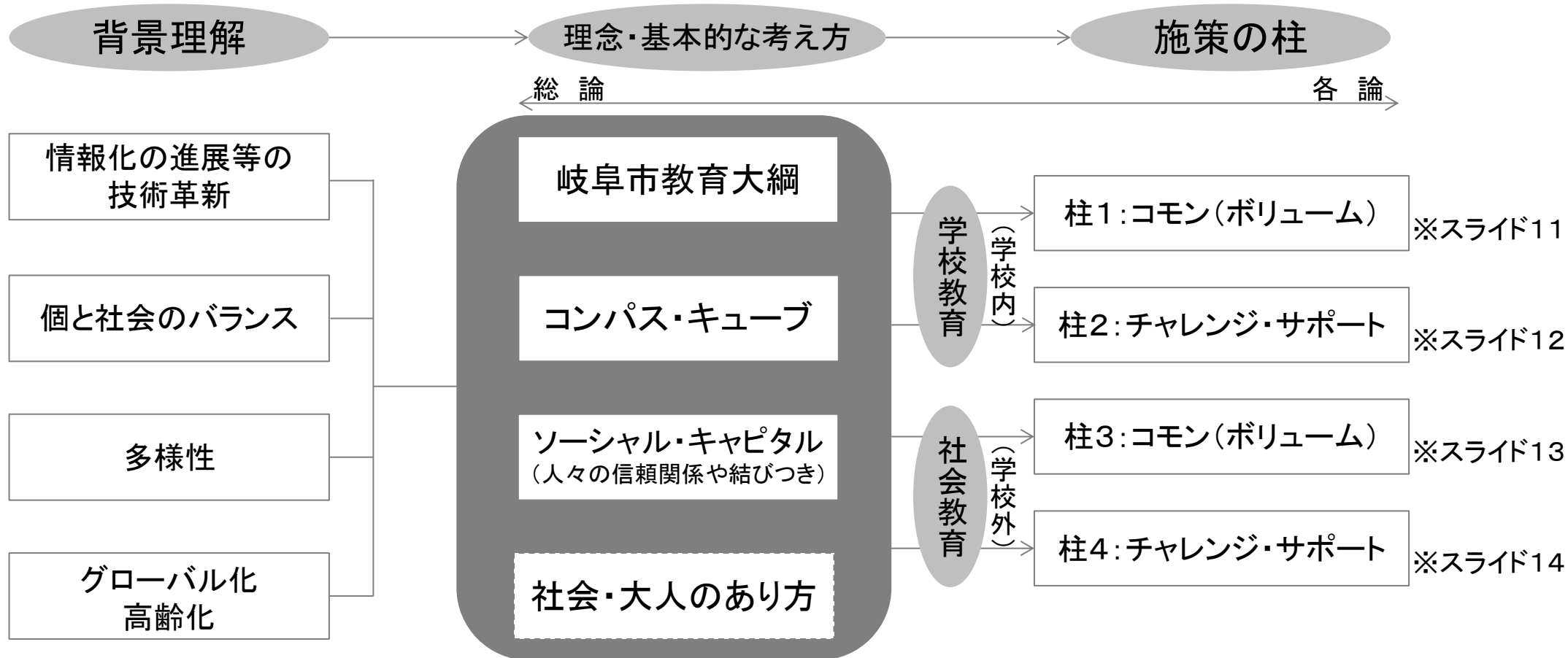


構成要素の例示

- ・スポーツや文化芸術分野に秀でた人材の育成
- ・豊富な経験をもつ人財の知恵を循環させる仕組みの構築
- ・若者の居場所作りや社会との接点を保つ取組みの推進
- ...

15. 全体のイメージ

- ▼ 理念から基本的な考え方、施策の柱に向かって細分化
- ▼ 具体的な事業等は施策の柱に位置付ける



16. 岐阜市教育大綱

▼ 果敢に挑戦できる子どもを育むため、地域や保護者との協働や教員の指導力の向上が挙げられている

基本方針

地域や保護者の皆様とともに、「夢と希望に満ちた未来の実現」に向け、果敢に挑戦できる子どもを育む

- 1 自ら学ぶ意欲、個性を磨く意欲を育む
→学ぶ意義を理解させ、楽しさを実感させることにより、自ら積極的に学ぶ意欲、個性を磨く意欲を育む
- 2 多様な人と協働し、考える力を育む
→知識・技能の習(修)得とともに、課題の解決に向けて他者と協働し、考える力を育む
- 3 地域・社会と関わる意欲を育む
→地域・社会の課題に我が事として関わり、地域・社会をより良くしようとする意欲を育む

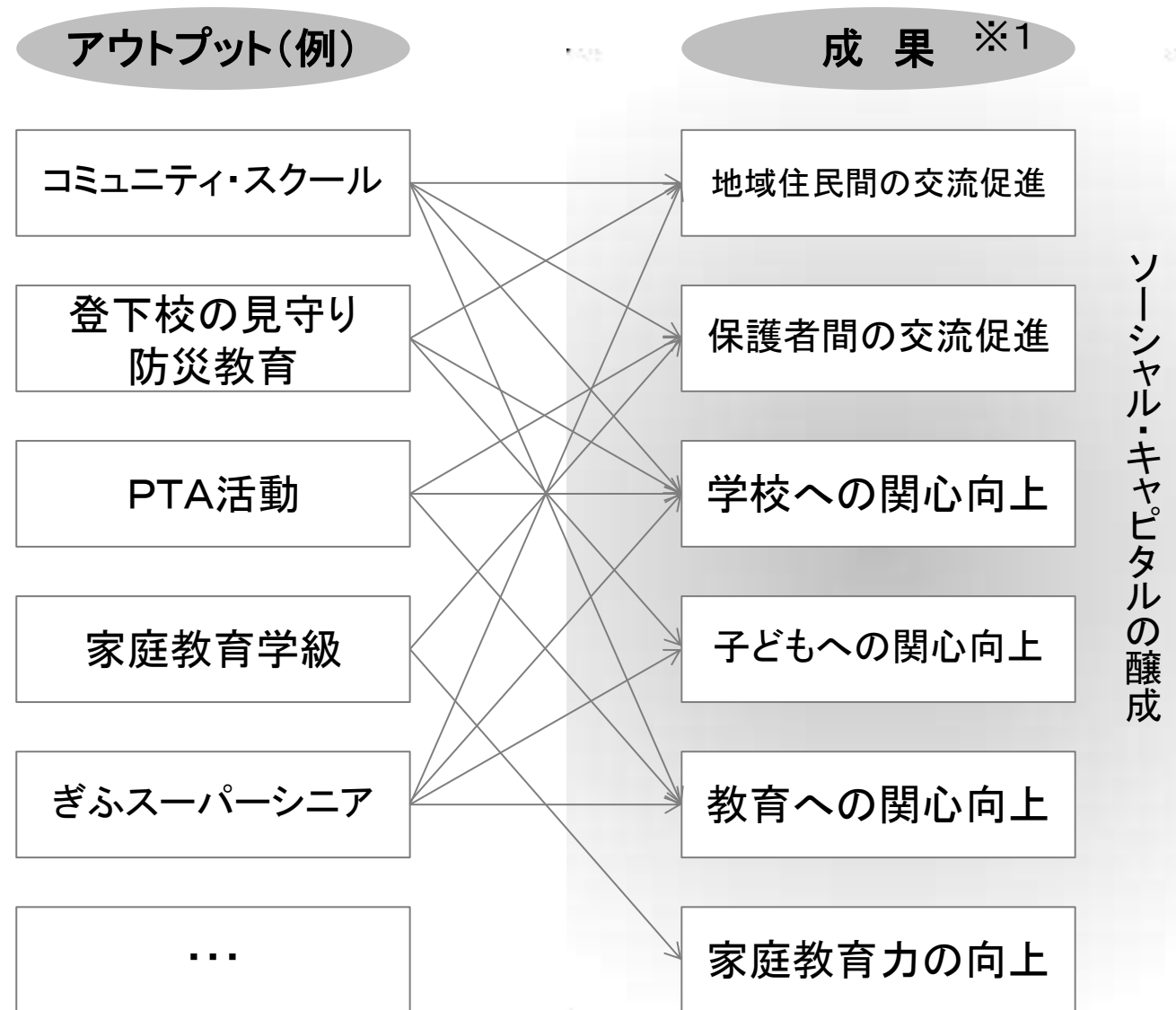
実施にあたって

- ・地域や保護者の皆様との協働
- ・教員の指導力の向上

※大綱に期限の定めはないが、社会情勢の変化により、策定時には想定されなかった教育上の課題が新たに生じた場合は、迅速に大綱を見直していくこととしている

17. 補足①: 地域や保護者の皆様との協働

▼ 地域や保護者の皆様との協働を進めることは、ソーシャル・キャピタルの醸成につながり、ひいては、子どもたちの教育に高影響を及ぼす

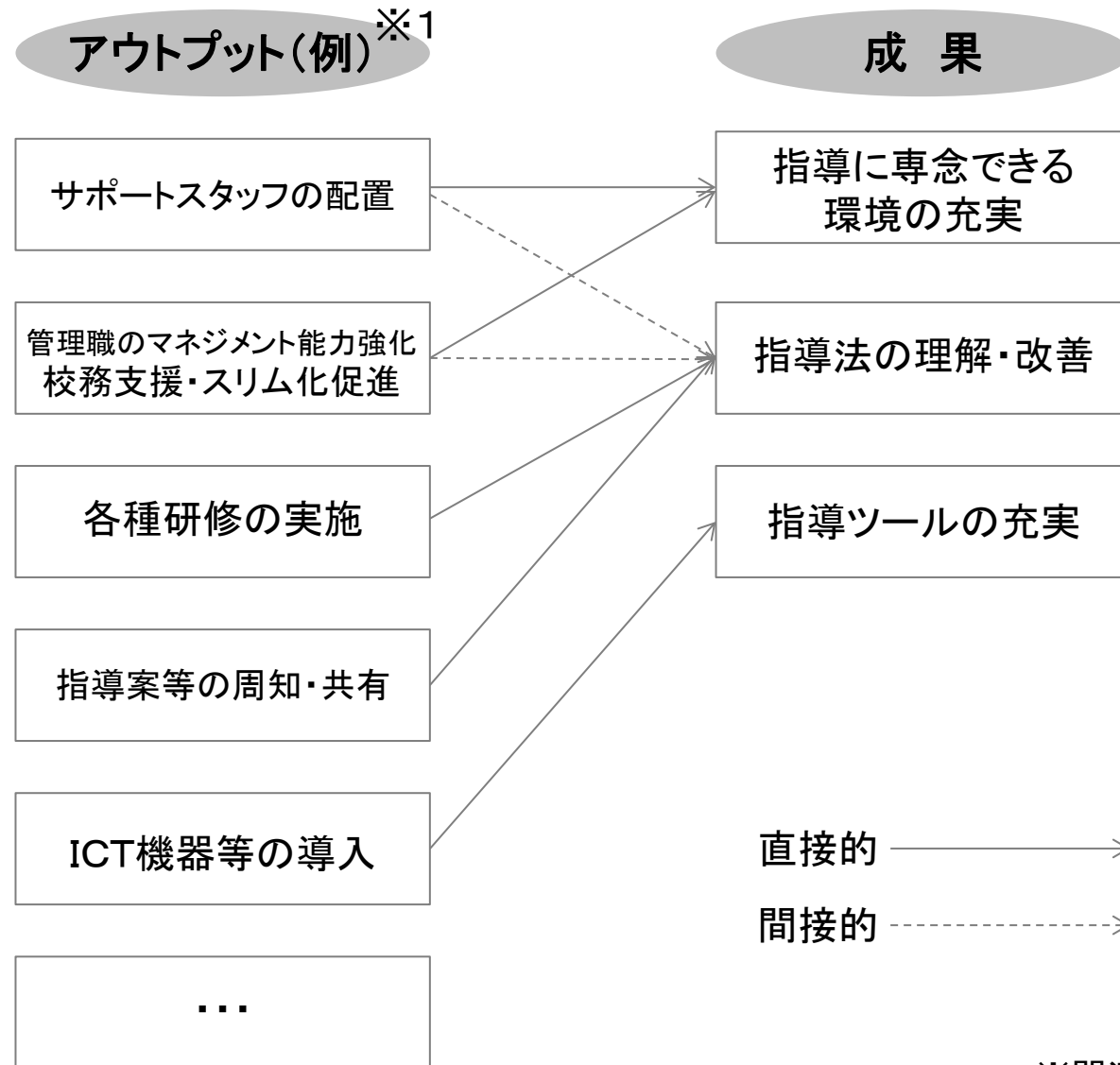


※1: 多くの中間成果があるが、ここでは地域や保護者に着目して記載

※関連資料: 参考1(スライド20~23)

18. 補足②:教員の指導力の向上

▼ 教員の指導力の向上には、指導に専念できる環境の充実が必要



※関連資料:参考1(スライド24~26)

※1:授業研究等の教員同士の自発的な取組みは国際的にも評価が高いが、ここでは教育委員会の施策に着目して記載

19. コンパス・キューブ

- ▼ 次期学習指導要領との関連性を確認した上で、
作成の経緯を踏まえ、パッションに重点を置くものとして位置付ける

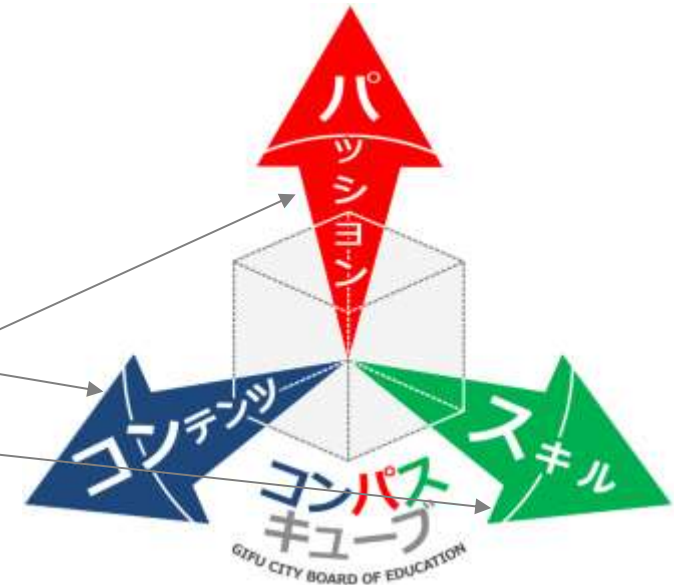
次期学習指導要領とコンパス・キューブの関連性

次期学習指導要領(小学校:H32~/中学校:H33~)

・H29.3.31告示 ⇒ H32年(2020年)以降に小学校から順次実施

どのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしながら
教育活動の充実を図る

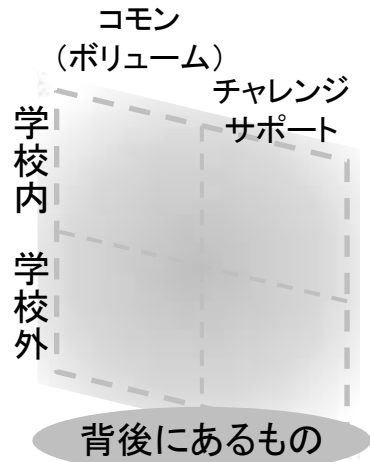
- 知識及び技能が習得されるようにすること
- 思考力、判断力、表現力等を育成すること
- 学びに向かう力、人間性等を涵養すること



20. ソーシャル・キャピタルに関して

▼ 学校が地域と連携して子どもの成長への関心を持ってもらうことが重要

▼ 保護者が連携する姿勢を子どもに見せることで子どもが学習する姿勢に好影響



人々の信頼関係や結びつき ~ソーシャル・キャピタル~

▼ 子どもと、

- ・保護者との関わり
- ・子ども同士の関わり
- ・様々な立場の大人との関わり

▼ 保護者と、

- ・学校との関わり
- ・保護者同士の関わり
- ・地域との関わり

▼ 地域と、

- ・学校との関わり

▼ 岐阜市における調査研究の結果を踏まえて

- 地域住民の持つ集合的有能感が子どもの社会性や学力に関連
- 子どもを取り囲むさまざまな他者の全般的なかかわりが、子どもの健全な成長に重要
- 子どもとの個別のかかわりだけではなく、大人どうしの連携も子どもの成長に重要
- 地域住民や保護者の連携が子どもの地域への愛着や交流を高め、そして学力や社会性、学級への適応感を向上
- コミュニティ・スクールを設置して年数の経過した岐阜市の小学校では、保護者の連携意識が高く、保護者の姿勢は子どもの学習と関連

※ 集合的有能感: みんなでより良い環境をつくることができるという感覚

目標・指標の設定について

21.目標・指標について

▼ 上段:教育委員会の諮問文(H29.6.7議決)抜粋

▼ 下段:本会議における、目標・指標の考え方(現行の国計画に準拠)

■ 審議に際しての留意事項

・現行計画の点検評価状況を踏まえ、重点施策において目標・指標を設定し、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第26条第1項に規定する事務の点検及び評価に役立てることについて

※参考:地方教育行政の組織及び運営に関する法律 第26条第1項
教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

本会議における考え方

目 標

- ・政策の事業の量ではなく、教育政策の受益者(学習者、社会全体)に対していかなる成果を目指すかを示すもの(例:自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合の現在の水準からの改善)
- ・なお、教育政策の成果による目標設定が困難である場合には、例えば、取組数の増加など教育政策の実施により直接的に発現する結果(アウトプット)に係るものを含む

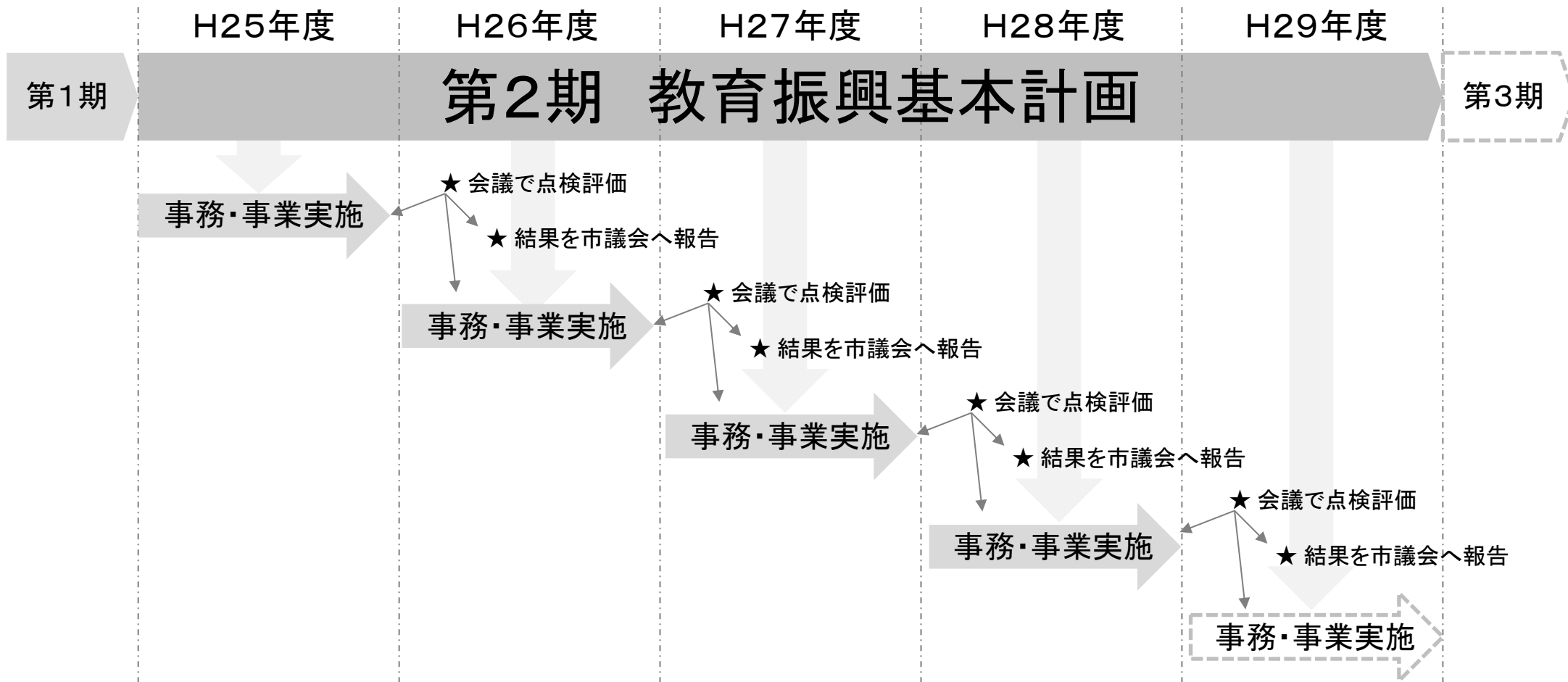
指 標

- ・目標の内容を補足するとともに目標達成度を直接的又は間接的に測定するもの(例:人が困っているときは、進んで助けている児童生徒の割合)
- ・客観性の確保のためには数値による指標設定が望ましいが、数値化が困難である指標については経年において増減を把握できる内容

22. 点検評価の状況

- ※
- ▼ 毎年、外部の有識者によって構成される会議において前年度の施策の状況を点検評価している
- ▼ 結果を市議会(9月議会)へ報告するとともに施策の改善・見直しを実施している

これまでの点検評価の状況



※委員3人以内で組織しており大学教員等が参画(岐阜市教育委員会事務点検評価委員会)、事前配付資料7参照

23. 事務点検評価委員会における意見

▼ 任期は、H29. 6. 27からH31. 3. 31まで ▼敬称略／委員長、再任の方から順に記載

氏名		所属(役職)
委員長	龍崎 忠	岐阜聖徳学園大学 教育学部 (准教授)
委員	田村 知子	岐阜大学 教職大学院 (准教授)
委員	伊藤 知子	株式会社十八楼 (取締役/女将)

▼ H29. 6. 27に委員3名が出席して開催、H28年度の各事務の実施状況を点検評価するとともに、点検評価の観点から計画における目標・指標の設定について意見聴取

事務点検評価委員会
6月27日

1. 意見

事務局

2. 報告

計画検討委員会
本日

▼ 出された意見の概要は下記のとおり

方向性

- ・目標が全くないということは考えにくいですが、様々な設定の仕方がある
- ・「こんなことをやろう、推進しよう」という話だけでは曖昧さが残ってしまう
- ・数値化できず目に見えないものが大事だと思うので、それを少しでも可視化できるとよい
- ・数値が入っていなければ点検評価ができないというわけではない

様々な手法

- ・アウトプットを目標にするか成果を目標にするかによっても違いが出る
- ・施策によって数値化になじむものもあるし、前年と比べてどうかというものもある
- ・まずはやってみることに意義があるものもあり、一義的に検討するのは難しい

24. ご議論頂きたいこと

▼ 子どもを育む社会や大人のあり方について

※スライド8~9

▼ 計画の枠組みについて

※スライド10~20

▼ 目標・指標の設定について

※スライド21~23
